2021年3月2日

立命館慶祥高等学校 第26回卒業証書授与式に係る式辞

立命館慶祥中学校・高等学校
校長　江川　順一

新型コロナウイルスによる感染症を予防するため、今年の卒業証書授与式を、例年とは異なるかたちで行いますこと、どうぞご理解をいただきたく思います。感染拡大の状況については、今なお予断を許さない中、卒業生の皆さん全員、そして保護者の皆様のご臨席を得まして、立命館慶祥高等学校の卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生や保護者の皆様にとっても、私ども教職員にとっても、大きな喜びとするところです。

ただいま、卒業証書を授与いたしました、第23期、328名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。皆さんが3年前に入学した際、菊地賢司学年主任が掲げた学年スローガンは、立命館大学初代総長の末川博先生の言葉である「理想は高く、姿勢は低く」でした。3年間、このスローガンのもと、前へ前へと進むことができましたか。入学式でここに立ち、皆さんを迎えたのは、久野信之校長でした。そして、「世界に通用する18歳」を目指してほしいこと、そのために「3つのC」である、貢献（contribution）、協働（collaboration）、挑戦（challenge）を実践してほしいことを述べました。それからの皆さんは、この学び舎で、立命祭はじめ、体育祭、海外への渡航や海外からの受入、SSH、SGHと、学校生活のさまざまな場面において、このことを実践してきました。

とりわけ高2の海外研修は、皆さんの最も思い出に残るイベントであったでしょう。あなたは、どのコースを選択しましたか。

・YMCAパヤオセンターの子どもたちから、人身売買の現実を学んだタイ。
・戦争で使われた枯れ葉剤から、過ちを繰り返さないための答えを探したベトナム。
・実作業をとおしたオランウータンの保護活動から、環境保護の実態を見たマレーシア。
・先進的な福祉と教育の現場から、日本や自分の暮らす町を見つめ直した北欧。
・アウシュヴィッツで「20世紀最大の負の遺産」を体感したリトアニア・ポーランド。
・NASAの最先端の科学技術から、人類の英知のその先を見たアメリカ。
・人間による生態系の破壊から、自然と共生するための方策を探ったガラパゴス。
・アンバサダーから、「自然文化親善大使」として任命されたボツワナ。

あなたが世界各地で、見て、触れて、体験したものは、世界の現実でした。世界の抜き差しならない現実を目の当たりにし、本質に迫ったその時に、あなたはどんなことを考えましたか？

あまりの凄惨さに、目を背け、後ずさりを余儀なくされたあなた。

あるいは、ひたすら立ち尽くすしか術のなかったあなた。

あるいは、この現実をどうにかしたい、何とかしたいと強く考えたあなた。

立命館憲章：「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、
正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成」

この時の思いは、各人各様だったはずです。しかし、この現実に真剣に向き合い、真摯に考えたことが、あなたのこれからの生き方やものの考え方に、深く根ざす「拠り所」となったことは間違いありません。

「物事の本質に迫る体験」は、あなたが、自ら考え、問題意識を持ち、将来へとつながるきっかけをつくったのです。あなたのこれからの人生は、この指針に基づいて設計されるはずです。あなたのこれからの生き方は、この羅針盤にしたがってプランニングされるはずなのです。

皆さんが迎えた高３は、世界が新型コロナウイルスに翻弄された１年間でした。本校も、４月に始業式を行うことはできましたが、その直後に緊急事態宣言が発令されて休校となりました。その後、５月はオンライン授業、６月は分散登校、７月は通常登校に戻りましたが、私たちは、今日に至るまで、皆さんの命と安全を最優先し、三密を避け、可能な限り感染リスクを低減させるための取組に余念がありませんでした。

授業形態も、リアルの通常授業をメインとして、オンライン授業やオンライン講習を頻繁に実施しました。この１年間は、皆さんにとっても、教職員にとっても、怒濤のような未曽有の体験の連続だったのです。先の見通しが立たないという状況は、それだけで不安をもたらします。不安の渦中で、皆さんは期待に応えて、本当によく頑張り抜きました。

これからの「With コロナ」時代は、歴史の変化が加速化する時代です。事実、外出時の総マスク姿も、大企業の完全テレワーク勤務も、１年前には予想だにしなかったことが、今はいくつも現実のものとなっています。「With コロナ」時代は、社会や技術の進歩のスピードが速くなり、将来、何が起こるか誰もわからない。今、人類は、数年先さえ見通すことができません。世の中がどう変化するかわからないときに、一番大事なことは、原点から考える力です。かつて経験したことのない変化に対応するためには、歴史に学んで未来を見据え、自分の頭で、自分の言葉で、データを用いてロジカルに考えることが大切です。

現代は、海外研修で皆さんが目の当たりにしたように、地球環境の悪化、頻発する紛争、拡大する格差、社会的マイノリティへの差別など、危機的状況にあります。

このような状況だからこそ、改めて思い出してほしい。立命館慶祥高校で、「世界に通用する 18 歳」を目指し、そのために「３つのC」である、「contribution」、「collaboration」、「challenge」を実践したことを思い出してほしいのです。社会や世界に「貢献」する高い志をもち、人種・宗教・文化の違いを超えて、互いに議論し、「協働」して答えのない課題の解決に「挑戦」するのです。

卒業生の皆さんは、一人一人が、これからさまざまな分野で活躍することになります。

私は、人は必ず、果たすべき何かを持って生まれてくると信じています。社会において果たすべき使命感を自覚し、高い志を掲げ続けてください。「理想は高く、姿勢は低く」です。

そして、最後に、改めて、問いたい。

「あなたは誰のために学び、誰のために生きるのですか。」

私は、あなたに、自分にできることは何かを真剣に考え、新しい時代を切り拓く先駆者になってもらいたいと願っています。立命館慶祥で学んだことに誇りをもち、胸を張り、そして自信をもって、先の見通せない社会に満を持して船出をしてほしいのです。

保護者の皆様、本当におめでとうございます。卒業を迎えたお子様の立派な姿に感慨も一入のことと思い

ます。また、本校の教育活動に寄せられました皆様の深いご理解とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、私学は家族です。

そして、私たち教職員は、いつまでも皆さんの応援団です。

人生は山あり、谷あり。これから先、困難な場面に出会って辛くなったら、この学び舎に帰ってきてください。あなたのことを決して忘れない先生方が、ここで待っています。

それでは、希望に満ちた今日の旅立ちの日に当たり、この学び舎を巣立ちゆく皆さんの前途に幸多からんことを心から祈念して、私の『式辞』といたします。